

I 1年生「総合的な探究の時間」における にかほ市の魅力発見学習

1 「いちじくいち」への参加

【目的】地域の課題解決の実際を、いちじくいちのプロジェクトに参加することを通して学ぶ。

【にかほ市の連携部署】総合政策課、農林水産課、いちじくいち実行委員会

(1) 佐藤勘六商店 佐藤玲氏 講話

【日時】7月10日（木）6校時

【実施状況】

いちじくいち実行委員会の佐藤勘六商店社長佐藤玲氏から「いちじくいちのつくりかた～北限のいちじく いちじくいちの起こりについて～」と題してお話いただいた。佐藤さんがこのプロジェクトに携わるまでの道のりを、生徒たちは興味深く聞くことができた。



(2) にかほ市大竹地区フィールドワーク

【日時】9月4日（水）1～6校時

【実施状況】

いちじくいち実行委員会の協力のもと、生産・加工・販売について知るためのフィールドワークを実施した。バス3台で見学箇所3箇所（①佐藤勘六商店(作業場など)、②いちじく畑、③大竹ふくじゅ館(いちじく実食)）をローテーションした。

また、グループでいちじくに関するテーマ別に調べたことを10月の学校祭において展示発表した。この活動をもとに生徒は、いちじくマイスター認定試験に挑戦した。



（3）「いちじくいち」スタッフ」活動体験

【日時】9月27日（金）5・6校時、10月4日（金）午後、5日（土）午前、10日（金）午後

【実施状況】

9月27日に会場となる旧上郷小学校の清掃をおこない、イベント前日の10月4日に現地での準備活動をした。イベント当日の5日には出店者搬入補助やいちじくの袋詰め・運搬、来場者案内・誘導・接客から、ゴミ箱のチェックや清掃など、それぞれの役割を果たした。お客様から挨拶・接客を褒めてもらったり、大人のスタッフの方から生徒たちの活躍に感謝の言葉をいただいたり、貴重な体験となった。イベント後の10日には撤収作業をおこなった。生徒が積極的に活動する場面を多く作れたことや、大人との関わりの中でいろいろなことを考えることができてよかった。



【課題】

今回が初めての試みであり、実行委員会から活動計画の枠組みを受けて、学校で対応する形で進めた。有意義な活動ができたので、次年度も引き続き新1年生が取り組んでいきたい。今年度は計画がはっきり示されてから準備するまでの期間が少なかったため、1年部に大きな負担をかけたので、次年度は改善しなくてはならない。また、実行委員会からは、新2年生は今回の経験を活かして次回も協力してほしいという要望が出され、ボランティアとしての参加などを検討したい。

2 にかほ市の課題と取組についての講話・ワークショップ

【目的】にかほ市の課題と取組について知り、地域の中で自分たちがどのような役割を果たせるのか考える契機とする。

【にかほ市の連携部署】総合政策課

【日時】11月28日（木）5・6校時

【実施状況】

にかほ市総合政策課企画調整班副主幹の伊藤健氏を講師に招き、地方創生の取組（人口ビジョンと総合戦略）について講話とワークショップをおこなった。また、今年にかほ市の地域おこし協力隊に着任した國重咲季氏から、「外から見たにかほ市」についてお話いただいた。その後のワークショップでは、お話のあった4つの基本目標から各グループでテーマを設定し、課題とその解決について話し合い、最後にグループ代表生徒が発表し、伊藤さんに講評をしていただいた。

現場の生の声で課題を示していただき、生徒の刺激になった。また、グループワークを取り入れていただき、生徒に充実感・達成感があった。

【課題】

地域との関わりの中で課題を探していくための起点となる活動としての意義があるので、次年度はもっと早い時期に実施した方がよい。



3 地域の伝承芸能（番楽）の体験的学習

【目的】地域の財産の1つであるにかほ市の伝承芸能にふれ、理解と関心を深め、課題やその解決について考える契機とする。

【にかほ市の連携部署】教育委員会、鳥海山小滝舞楽保存会

【日時】1月23日（木）6校時、2月14日（金）5・6校時

【実施状況】

1月23日は、DVD上映の後、秋田県民俗芸能協会会長の齋藤壽胤氏から「にかほ市の民俗芸能について」と題する講話をいただいた。そして、2月14日は、鳥海山小滝番楽を直に鑑賞した後、小滝舞楽保存会の数人の方から指導していただき、歌、太鼓・鉦、舞をローテーションで練習した。生徒は楽しみながら真剣に取り組んでいた。

【課題】

今回の体験的学習では、笛の準備の都合で、当初計画した演奏を体験することができなかった。2年生でも引き続き番楽体験を重ねて、生徒がより深く理解し、地域文化の伝承について関心を高めるよう支援していきたい。にかほ市や保存会には、伝承芸能の担い手を育てたいという願いがある。体験を通して番楽伝承に関心をもった生徒から、夏の各地での公開や仁高祭のステージ発表などで披露できる生徒が現れることを期待したい。そのためには練習機会の確保も必要になる。



II 授業とその他での取り組み

1 小学生対象プログラミング教室 〈情報メディア科〉

【参加生徒】 情報メディア科2年11名

【日時】 12月14日（土）、12月24日（火）、1月7日（火）・1月8日（水）

【にかほ市の連携部署】 学校教育課

【実施状況】 12月は、県立大本荘キャンパスで小中学生とその保護者に対して指導に協力し、象潟小学校で5年生61人に小西教諭とともに学習ソフト「スクラッチ」を使って指導した。
1月には平沢小学校と象潟小学校で「キッズプログラミング教室」を実施した。



2 TDKデザイン思考ワークショップ 〈情報メディア科〉

【参加生徒】 情報メディア科1年9名

【日時】 12月19日（木）、1月16日（木）、1月24日（金）・

【にかほ市の連携部署】 商工政策課、TDK

【実施状況】 TDKから招いた講師から、マイクロコンピューターを使ったプログラミングの方法を学んだ。

3 生活支援体制整備事業「にかほ市ささえあい創り隊」

〈生活と福祉〉

【参加生徒】 3年「生活と福祉」履修者2名

【日時】 7月30日（火）、10月25日（金）、
1月21日（火）

【にかほ市の連携部署】 地域包括支援センター

【実施状況】

高齢者の居場所づくりを進める生活支援体制整備事業の活動に対して、実際に現場に行き、話し合いに参加した。仁賀保・金浦・象潟各地区の様子や困り事についてお聞きして、高齢者の生活支援について考えを深めることができた。高校生の自分たちにできることは何か？アイデアを出す機会があり、授業の中で考えた多くの生徒の意見を提案できた。

みんなで考える高齢者等をささえあう地域づくり にかほ市ささえあい創り隊第1層協議体ミニフォーラム

7月30日、金浦勤労青少年ホームを会場にかほ市ささえあい創り隊第1層協議体ミニフォーラムが開催されました。これは、高齢者等が住み慣れた地域で生涯安心して過ごせる地域づくりを目指して行われたもので、この日は、さまざまな立場の方から互助や地域共生社会について、「高齢者の生活支援」をキーワードに討論しました。



▲暮らしやすい地域づくりを目指し討論しました

（にかほ市広報より）

仁賀保地域

「高」 高齢者が二人ではないと考える原則があり、互いに自分を支える老後が楽しく過ごせるよう取り組んでいます。

「高」 高齢者が笑顔で、日常的に集まれる居場所づくりを考えています。地域の「コミュニティ」を応援したいと思っています。

地域「高」 高齢者が笑顔で、日常的に集まれる居場所づくりを考えています。地域の「コミュニティ」を応援したいと思っています。

仁賀保地域の目指す居場所づくり
 居場所には人を集めて、困っている人や、その助けしてくれる人を見つけるチャンスになります。居場所での地域の困りごとを解決し、目指す「コミュニティ」を大切にしたい居場所づくりを目指しています。

仁賀保高等学校
 大須賀ひなえ 高橋さくら 先生

PTA関係
 小川京子 さん

にかほ市商工会(田原西駅前)
 齋藤 伸二 さん

にかほ市全体

「協」 協働で未来のにかほ市に。世代を越えに考え、さまざまな世代とつながり、住みやすい街にしたいと思っています。

仁賀保高等学校
 大須賀ひなえ 高橋さくら 先生

※ 太字は居場所づくりのキーワード

金浦地域

「以」 前から変わらず暮らさる地域について考えています。協働の話し合いで、関心のある人が支え合える「居場所」の必要性を感じています。

「先」 健康・健康づくりの場、世代を超え、多くの人と交わり、そして、自分に合った居場所を見つけようと考えています。

金浦地域の目指す居場所づくり
 みんなが行きたくなる居場所。自分が行きたくない居場所です。他人がいてはじめて居場所。居場所について真剣に考えよう。100色は居場所もあふれる。いろいろな居場所をいばい発掘したいです。

PTA関係
 中田 香 さん

飛白自治会
 佐藤 正春 さん

生活支援体制整備事業

「にかほ市ささえあい創り隊」

～地域の一人ひとりが考える 高齢者の居場所づくり～

少子高齢化が進み、地域の中でお互いに支え合う地域づくり(互助)が必要とされ、その一つとして「居場所づくり」があります。居場所は人との交流や相談の場、一緒に何かを行う場であり、健康づくりや介護予防、社会福祉活動等を生み出す場にもなります。市では、この「居場所づくり」を生活支援体制整備事業「ささえあい創り隊」の活動で推進しています。☑ 地域包括支援センター ☎ 32-3045

象潟地域

「私」 の集居では、月一のサロンで出前講座、ものづくり・手料理交流会と、一日いっばい楽しんでいます。居場所は集居から感じています。

「若」 い世代は高齢者から教養や知識・技能を学び、高齢者も若い世代から新しい知識や元気をもらう。世代を越えて自然に交わることができる居場所づくりが大切です。

象潟地域の目指す居場所づくり
 居場所には人を集めて、困っている人や、その助けしてくれる人を見つけるチャンスになります。居場所での地域の困りごとを解決し、目指す「コミュニティ」を大切にしたい居場所づくりを目指しています。

民生児童委員
 仁藤 恵里 さん

民生児童委員
 佐藤 正隆 さん

西中野沢友和サロン
 佐々木 正行 さん

妙見町町内会
 大橋 次雄 さん

「私」 の集居では、月一のサロンで出前講座、ものづくり・手料理交流会と、一日いっばい楽しんでいます。居場所は集居から感じています。

「若」 い世代は高齢者から教養や知識・技能を学び、高齢者も若い世代から新しい知識や元気をもらう。世代を越えて自然に交わることができる居場所づくりが大切です。

象潟地域の目指す居場所づくり
 居場所には人を集めて、困っている人や、その助けしてくれる人を見つけるチャンスになります。居場所での地域の困りごとを解決し、目指す「コミュニティ」を大切にしたい居場所づくりを目指しています。

民生児童委員
 仁藤 恵里 さん

民生児童委員
 佐藤 正隆 さん

西中野沢友和サロン
 佐々木 正行 さん

妙見町町内会
 大橋 次雄 さん

私たちは「生活支援コーディネーター」です。協働体「ささえあい創り隊」には、核となる「生活支援コーディネーター」がいます。メンバーは、にかほ市社会福祉協議会や介護関係者、地域包括支援センター職員が担っています。皆さんの地域の「居場所づくり」のために、お邪魔した際はよろしくお願いいたします。

にかほ市の高齢者がよく出かける場所は？

1位	病院	→70%
2位	田畑	→60%
3位	店、知人の家	→30%
4位	入浴施設	→25%

(※2次元アンケートより算出)

生活支援体制整備事業
 協働体「にかほ市ささえあい創り隊」とは？
 地域のごまごまな団体や立場の人で協働体を作り、「高齢になっても住み続けられる暮らしやすい地域」を目指し、情報収集や困りごと・解決策の検討を行います。市全体に1つ、仁賀保・金浦・象潟の各地域に1つ、計4つの協働体があり、今年度は「居場所づくり」に取り組んでいます。

「にかほ市ささえあい創り隊」のメンバー
 自治会長、民生児童委員、地域振興協議会、老人クラブ、婦人会、老人会、PTA、介護関係、ボランティア関係、JA、高校生、一般市民 など

NIKAO City Public Relations Magazine

(にかほ市広報 より)

Ⅲ 学校行事としての取り組み

1 にかほ市防災訓練への参加

【目的】 にかほ市が地域防災計画に基づき大規模地域地震災害等を想定して実施するもので、防災体制の強化と防災意識の高揚を図る。

【日時】 8月31日(土) 午前中

【にかほ市の連携部署】 防災課、にかほ市消防

【実施状況】

にかほ市で毎年実施している防災訓練を今年は本校を会場に実施した。本校生徒の一部は傷病者役や炊き出しで参加し、他の生徒は避難訓練後、見学した。本校で毎年おこなっている避難訓練よりも大がかりで、普段見ることのできない装備を目の当たりにして、大規模な災害の際の消防や自治体の取り組みを知ることができ、今後の自分たちの防災訓練にも知識が役立つと思われる。

【課題】

数年継続し実施していけば、改善点が見つかり、生徒や教職員が救助や避難にもっと積極的に関わられるようになると思う。しかし、市の防災訓練であり、さまざまな災害に対して消防・警察・行政が一体となって救助にあたるという性質上、継続実施は難しいのではないかと感じた。



2 にかほ市観光拠点センター「にかほっと」での学校祭開催

【目的】学校祭は、仁賀保高校の日頃の取り組みや魅力を生徒自ら発信する最大の行事であり、場所を「にかほっと」に移すことで多くの集客とPR効果を図る。

【日時】10月5日（土）

【にかほ市の連携部署】観光課、総合政策課、にかほ市観光協会

【実施状況】

1年生は前日の準備から当日の午前中までいちじくいちの活動と重なったため、学校祭は2・3年生中心の活動になった。学校開催と違って諸々の制限があり、客層も違うので、従来型の催しの見直しも必要になり、うまく工夫することによって表現力や創造力も増したと思われる。来場者の大部分が保護者であった従来の学校祭と比較して、今回は「にかほっと」や道の駅に立ち寄った一般の人たちに仁賀保高校生の姿を見てもらうことができよかった。

【課題】

1年生がほとんど参加できなかったことに対して残念だったという声があった。他の行事との関係もあり日程を動かすのが難しいところもあるが、さまざまな方策を検討して、1年生がいちじくいちに参加しながら学校祭にも関わっていきけるような方向を考えていきたい。

今回は初めての試みでほとんど手探り状態だったのでさまざまな問題点・改善点が見られたので、次年度は早めに計画して準備を進めなくてはならない。



文化祭の常識を打ち破る校外での開催

第30回仁高祭～彩能～

10月5日、にかほっと特設会場で仁高祭が行われました。気軽に来てもらえるよう仁賀保高校史上初にかほっとでの開催となった学校祭は地域の人で大賑わい。生徒たちは日々の躍動感あふれる活動の成果を発表し会場を盛り上げたほか、模擬店などでは来場者をもてなし楽しませ、第30回のアニバーサリーにふさわしい学校祭となりました。



▲模擬店には今話題の食べ物や飲み物が並びました

（にかほ市広報 より）



IV 部活動・同好会・生徒会総務等の取り組み

※おもなもの

1 起業体験プログラム（NPO法人イノベヤ主催「わかものみせ」）

【参加生徒】 生徒会総務2年生6名

【日時】 6月15日（水）、8月3日（土）～4日（日）、9月28日（土）

【にかほ市の連携部署】 商工政策課、総合政策課

【実施状況】 6月に事業計画プレゼンテーション・会社設立、8月に由利本荘市のカダーレのギャラリーにおいて「わかものみせ」がおこなわれ、会社名を「（株）シーミルク」として、佐藤勘六商店のいちじくの甘露煮を販売した。9月の株主総会・表彰式では、秋田県に関係する若手起業家によるパネルディスカッションにも参加し、最後に表彰が行われ、「地域産業おこし奨励賞」をいただいた。起業の楽しさや大変さ、起業するために必要なプロセスなど、普段の授業ではなかなか得られないようなことを学ぶことができた。



2 ジオパーク推進委員としての活動

【参加生徒】 生徒会総務4名

【日時】 8月23日（金）・24日（土）、1月17日（金）

【にかほ市の連携部署】 観光課

【実施状況】 4名の生徒が平成元年度のにかほ市鳥海山・飛島ジオパーク推進員に指定され、8月に開催された東北ジオパークフォーラムの開・閉会セレモニーの司会と鳥海山・飛島ジオパークの紹介をおこなった。また、1月のジオパーク認定商品審査会試食審査に参加して、若者の立場から意見を述べた。



3 市議会報告会（議会ワークショップ）

【参加生徒】生徒会総務・BV会17名

【日時】7月26日（金）

【にかほ市の連携部署】にかほ市議会

【実施状況】にかほ市スマイルにおいて、「君の声をにかほの未来につなげよう」というテーマでにかほ市議会16名の方々と本校生徒17名、市内中学生7名が3つの課題について協議した。議会の働きや役割を知るとともに、地域の将来を担う若者の考えを発言する機会となった。



4 池田修三木版画展まちびと美術館「ふたあり」への参加

【参加生徒】茶華道部

【日時】11月10日（日）

【にかほ市の連携部署】文化財保護課

【実施状況】にかほ市内各所で開催された美術展のメイン会場の象潟公会堂で呈茶席を設けた。修三さんの版画を飾っているすてきな空間でお茶を提供し、日々の稽古の成果を一般のお客様に披露し喜んでいただけたことは、生徒にとってたいへん素晴らしい経験となり、自信につながった。

5 白瀬・南極フェア2019への参加

【参加生徒】吹奏楽部、フラ同好会、BV会

【日時】9月7日（土）

【にかほ市の連携部署】白瀬・南極フェア実行委員会

【実施状況】白瀬南極探検隊記念館前の南極公園で行われた白瀬・南極フェアに、吹奏楽部・フラ同好会・Benkyo & Volunteer 同好会（BV会）が参加した。吹奏楽部は、合同演奏を含め、「Lemon」（米津玄師）など全2曲を披露した。フラ同好会は、2年生7名が4曲ダンスを披露した。BV会は企画段階から参加し、「しらせクイズ」の運営を担当した。

